

機関横断的な人文・社会科学系URAネットワークによる 持続可能な研究推進基盤構築と活用

人文・社会科学系URAネットワーク

(JINSHA: Japan Inter-Institutional Network for Social Sciences, Humanities and Arts)

- ・大阪大学 経営企画オフィスURA部門
- ・京都大学 学術研究展開センター（現：総合研究推進本部）
- ・筑波大学 研究戦略イニシアティブ推進機構 研究マネジメント室
- ・琉球大学 研究推進機構研究企画室
- ・早稲田大学 研究戦略センター
- ・北海道大学 統合URA本部
- ・横浜国立大学 研究推進機構
- ・中央大学 研究推進支援本部
- ・広島大学 未来共創科学研究本部 研究戦略部 研究戦略推進部門
- ・東北大学 研究推進・支援機構リサーチ・マネジメントセンター
- ・東京大学 リサーチ・アドミニストレーター推進室
- ・新潟大学 経営戦略本部UA室
- ・神戸大学 学術研究推進機構 学術研究推進室

人文・社会科学系URAネットワーク（JINSHA）とは、機関横断的な研究推進基盤

- ・ 2014年に大阪大学、筑波大学、京都大学のURAが中心となって発足
 - ・ 2025年2月時点で、13大学の全学URA組織・約60人のURA等（13大学のOB/OG含む）が参画
 - ・ URA、研究者、事務職員、府省・資金配分機関担当者などが、ともに人文・社会科学系分野のよりよい研究推進のあり方を議論し、実際のアクションへ
- を軸とした

年度（FY）	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
フォーラムの 各回主幹校	第1回 大阪大学	第2回 筑波大学	第3回 琉球大学	第4回 京都大学	第5回 早稲田大学	コロナ禍 により延期	第6回 北海道大学	第7回 中央大学	第8回 広島大学	第9回 東京大学	第10回（予定） 神戸大学 新潟大学
JINSHA 構成機関 （幹事校）の 参画時期	■大阪大学 経営企画オフィス URA部門		■琉球大学 研究推進機構 研究企画室				■広島大学 未来共創科学研究本部 研究戦略部 研究戦略推進部門				
	■京都大学 学術研究展開センター				■北海道大学 統合URA本部		■東北大学 研究推進・支援機構 リサーチ・マネジメントセンター				
	■筑波大学 研究戦略イニシアティブ推進機構 研究マネジメント室				■横浜国立大学 研究推進機構		■東京大学 リサーチ・アドミニストレーター推進室				
					■中央大学 研究推進支援本部		■新潟大学 経営戦略本部UA室				
	■早稲田大学 研究戦略 センター						■神戸大学 学術研究推進機構 学術研究推進室				

主な活動内容のポイント

人文・社会科学系の研究推進を担当業務に含むURAを中心に

- 1 特定の職種や組織に限定されないオープンな議論の場を10年以上継続的に設ける
- 2 日本でURAが導入された当初、自然科学系に比べてURAの役割が不明確だった人社系分野の課題や事例の共有・公表を、機関をこえて先駆的に実施
- 3 研究評価や学際研究・社会課題対応など、組織・セクターをこえ連携し取り組むことで効果が期待できるテーマについて議論、外部資金の獲得にも成功
- 4 問題意識を共有するURA達の活動を所属組織が認め支援することで、活動の信頼性・継続性を高め、活動成果を自組織にもフィードバック

下記の2つの議論の場の企画・運営を、持ち回りで担当

人文・社会科学系研究推進フォーラム

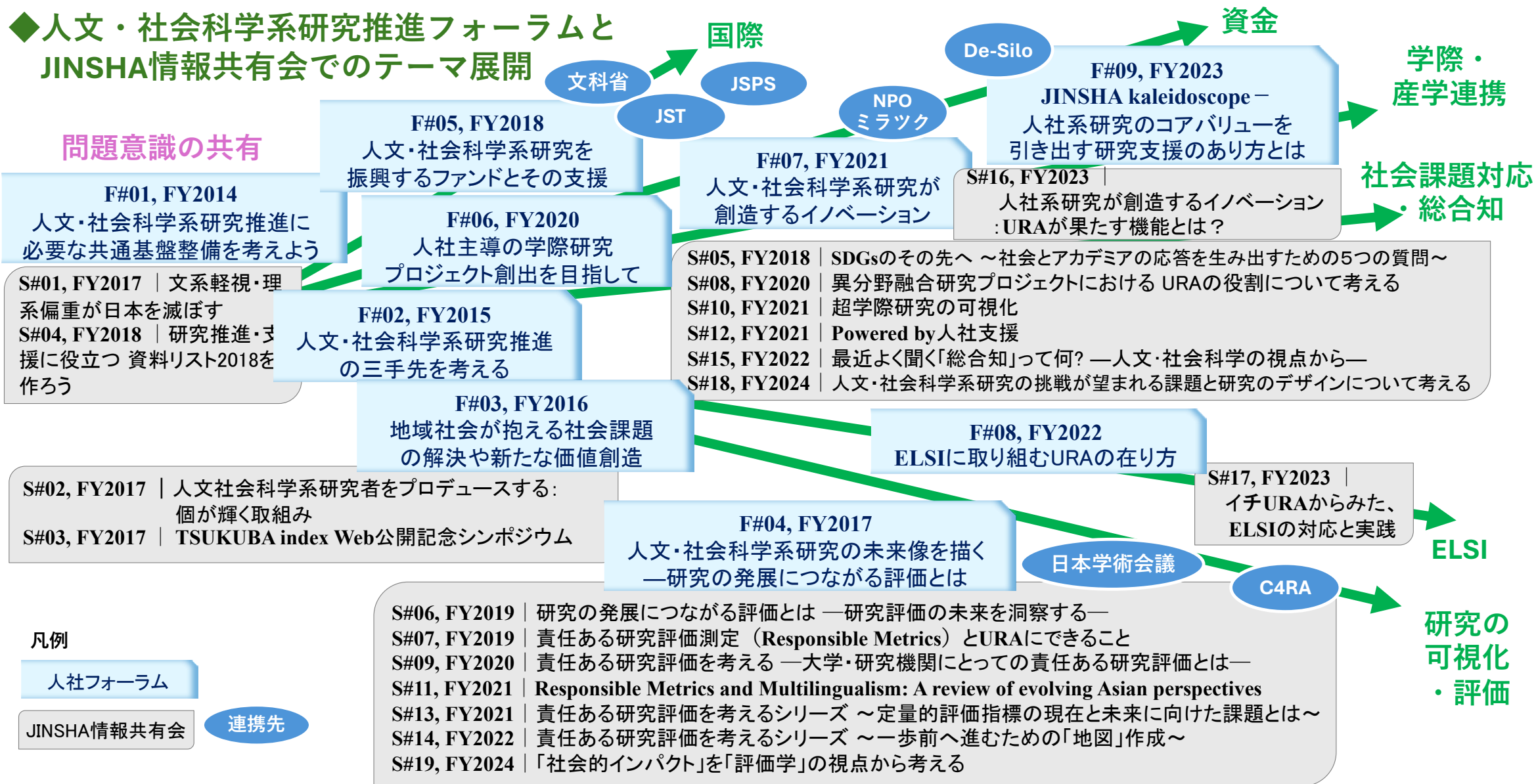
- ・ 2014年12月の第1回開催を機に、ネットワークとしての本格的な活動を開始
- ・ URA、研究者、事務職員、府省・資金配分機関担当者などが、ともに人社系分野のより良い研究推進のあり方を議論するための場として開催
- ・ 年1回のペース・100～200名規模でこれまで9回開催

JINSHA情報共有会

- ・ フォーラムより小規模で深い議論や参加者同士の情報交換を目的として開催
- ・ 不定期に19回開催（特別編を含めると21回）

オープンな議論の場を継続的に開催していることが、既存のメンバー以外のURAが集まり、それぞれの問題意識に基づく新しい企画を実現できる仕掛けとなっている

◆人文・社会科学系研究推進フォーラムと JINSHA情報共有会でのテーマ展開



開かれた議論の場づくり

科学技術・学術政策動向や社会背景も踏まえた、
人社系分野の研究推進に閉じない多岐にわたる
テーマ設定



外部資金獲得、学際研究、産学連携、社会課題対応・総合知、ELSI、研究の可視化・評価、国際など

参画したURAの所属大学へのフィードバック



扱われた多くのテーマが所属大学での活動に反映
外部資金プロジェクトにつながったテーマも

幹事校・参画URAの多様性



13幹事校は国立または私立の総合大学
参画URAの専門分野や担当業務は人社系に限らない

オープンな活動基盤



新規参加者や小規模大学のURAも関わりやすく、
様々なバックグラウンドを持つメンバーが組織の枠を
こえて協力

様々なステークホルダーとの関係を構築、
大学に閉じない研究推進基盤への広がり



議論の場における講演依頼など、研究者、府省・資金配
分機関関係者や企業関係者等とのつながり

人社系研究推進に関する議論の牽引

- ・ 文部科学省「リサーチ・アドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備」事業（2011年度開始）
- ・ 文部科学省「研究大学強化促進事業」（2013年度開始）



日本の大学にURAの配置が進行

しかし、当初は人社系分野に関してURAがどのような活動をすべきか明らかではなかった

JINSHAでは、フォーラムを皮切りに、外部資金獲得や研究の可視化・評価、学際研究、社会課題対応など、人社系分野の課題の整理と並行して、それら課題解決のためにURAとしてどのような活動をすべきかに関し、有識者の講演や具体事例の共有等を通じて検討

フォーラムや情報共有会の講演録をできる限り作成してウェブサイトや機関リポジトリに公開することで、当日参加できなかった方に対しても広く共有 議論の蓄積と可視化

議論から生まれたアクションとアウトプット

研究の可視化 ・評価



日本学術会議第一部「学術の振興に寄与する研究評価を目指して－望ましい研究評価に向けた課題と展望－」への貢献

「DORA Community Engagement Grants」の共同申請・獲得によるプロジェクト実施
Japan Institutional Gatewayの公開（文科省「OA加速化事業」に先立ち導入を議論）

文部科学省「人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業（人文学・社会科学研究におけるデータ分析による成果の可視化に向けた研究開発）」（企画、実施協力）

社会課題対応 /総合知/学際



JST/CRDS戦略プロポーザルにおいて人社系URAネットワークの取組が先行事例として紹介
文部科学省「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」（参画研究コーディネート、実施協力）

ELSI



URAによる自大学ELSIセンターに対する本格支援の開始

ゆるやかなネットワークによる持続的な活動

組織単位の参加方法

フォーラムまたは情報共有会のいずれか1回以上を幹事校として持ち回りで主催すること（他大学URA組織は共催の形で企画・運営協力）、その前提として、JINSHA参加に関し組織の承認を得ること

個人単位の参加方法

幹事校のURA（OB/OG含む）であることを条件に、参加メンバーが組織から人的・物的・資金的な支援を受けられる仕組みを整えている。

組織がJINSHAの活動をバックアップすることで、JINSHAでの議論を自組織の活動にフィードバックしやすいというメリットも

あえて特定の代表者・代表機関を決めず、活動に応じて都度ふさわしい者がリーダーを務める

自主性と平等性を重視したゆるやかなネットワーク

特定の組織や個人に負担が集中しないよう配慮しつつメンバーの多様性を活かした個々の活動が実現し、JINSHA全体として活動の持続性が担保されている

アクティブなコミュニティ：ハブとしての機能

この10年間で、研究者、府省・資金配分機関関係者、企業、NPO等とのつながりも増加
人社系に関するURAの窓口としての役割を徐々に担うように
人社系研究推進に関しての知見が集積されているアクティブなコミュニティとして認知されつつある
大学組織以外へもJINSHAの活動が波及、JINSHAが異なるコミュニティやセクターをつなぐハブに成長

JINSHAの外の組織や担当者との連携・共創実績の一例

文部科学省： 学術企画室（人社特別委員会を所管）や学際研究推進担当者との意見・情報交換
（先方からの依頼、2021年度以降年1回ペース）

内閣府： 「総合知」担当者との勉強会（2021年12月）

JST： CRDSワークショップでの話題提供（2018年3月実施、ワークショップ報告書はCRDSより公開）
「自然科学と人文・社会科学との連携を具体化するために～何を、どのようにすすめるのか～」

日本学術会議： 『学術の動向』（2018年10月号）企画・執筆協力、研究評価分科会での報告（2019年12月20日）、
提言「学術の振興に寄与する研究評価を目指して－望ましい研究評価に向けた課題と展望－」作成協力（2021年11月）
「人文・社会科学の研究による社会的インパクト～事例調査に基づく評価のあり方の検討～」報告への協力（2023年9月）

今後に向けて

- ・今夏に実施したメンバーアンケート結果を踏まえたJINSHAの将来構想も進行中
- ・人社系研究は、人間や社会の本質を理解し現代の課題解決や未来の方向性を見出す役割を担っている。研究と社会の距離が離れてしまっている場面も多い今日、URAとしてこうした人社系研究の役割に向き合いながら、人社系に軸足を置くことでその役割を強みとして活かしつつ異なる組織やコミュニティ、セクターをつないでいくことにより、

10年後には国内外でJINSHAが「**研究と社会をつなぐ先導的モデル**」となることを目指す

第10回人文・社会科学系研究推進フォーラム

人社系研究はどう産業に貢献し得るのか～“シンダイ”の実践から紐解く～

主催：神戸大学 学術研究推進機構 学術研究推進室、新潟大学 経営戦略本部UA室

日時：2025年3月10（月）14：00～17：00 【ハイブリッド開催】

場所：神戸大学 六甲台第二キャンパス

バイオメディカルメンブレン研究・オープンイノベーション拠点棟
1階ダイセルOIホール（対面参加は先着50名程に限定予定）



参考URL

人文・社会科学系URAネットワーク 活動実績

<https://www.ura.adm.u-tokyo.ac.jp/services/view/d6a8cef1-22f8-4c00-b080-c28fc4cf6c75>

機関をこえたURA連携の意義とは～人社系URAネットワーク10年の軌跡と展望

(RA協議会第10回年次大会ポスター発表)

<https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/2010385>

連絡先

京都大学 総合研究推進本部 研究プロモート部門

リサーチ・アドミニストレーター (上席)

稲石 奈津子 e-mail | inaishi.natsuko.8s@kyoto-u.ac.jp

ネットワークメンバー (2025年2月時点 65名)

森本行人・川人よし恵・稲石奈津子・高橋そよ・天野絵里子・神谷俊郎・丸山浩平・島岡未来子
佐々木結・矢吹命大・中野悦子・菊田隆・山田綾子・齊藤愛・押海圭一・松山久美・三田香織
島袋真澄・荒木裕子・藤田弥世・鈴木環・藤川二葉・新澤裕子・平澤加奈子・臼澤基紀・堀野秀幸
李香丹・平田充宏・山田典子・福田将矢・一色大悟・市川美南子・白井隆志・佐藤侑太郎・境野飛鳥
石田真・村上尚子・飯塚三保・飯塚理恵・澤田真理子・森岡和子・王倩然・伊野恭子・永沼菜未

他21名